

実践記録（小4・総合）

1 ねらい

地域の方と協力して、学区の防災マップを作り、それを友達と共有することで、自分事として防災についての意識を高めることができるようにする。

2 手立て

- ・ 学習者用タブレットで記録した画像の使用
学区探検に行き、気になった場所や友達に知らせたい場所を記録し、提示しながら理由と共に発表することで、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・ 学区探検で得た情報を、3色の付箋で色分けして整理する
ピンク（安全な場所）、青（危険な場所）、緑（覚えておくとい場所）に分け、地図に貼っていき、視覚的にも分かりやすくする。

3 実践の様子

中区役所、中消防署、学区消防団の方々計9名の方にご協力いただいた。4年生42名を6班に分け、各班、教員1名と協力者の方1～2名が引率して、自分の通学団の近くを探検した。普段、通学路で通っているところでも、防災（今回は特に地震）の観点から学区を歩いてみると、「この駐車スペースは、家が壊れたときにテントを張れそうだね」「このブロック塀は、すぐ崩れそうで危ないね」などと、新しい発見をしていた。

探検から帰った後、自分たちの探検した箇所の拡大した地図に、3色の付箋を貼って情報を整理していった。【資料1】ピンクは「安全な場所」、青は「危険な場所」、緑は「覚えておくとい場所」とした。広い公園などはピンク、ブロック塀や、高く荷物が積まれていて倒れそうなところは青、災害用の自動販売機や、避難場所になりそうな薬局などの協力施設は緑の付箋に書き込み、地図に貼っていった。その後、ロイロノートを活用し地図の写真



【資料1】付箋を貼りながら、探検で得た情報を整理している様子



【資料2】ロイロノートで作成した資料

を取り込んだ。また、タブレットで記録した写真も取り込み、地図に重ねていった。【資料2】情報の発信の場面では、ロイロノートの画面を投影し、全体で共有した。写真や地図を拡大しながら、「こんな場所を見付けた」「ここは気を付けてほしい」などと発表していた。

普段よく知っている学区だが、防災の観点で見ると、新しい発見があり、「こんな場所があったなんて初めて知った。」「家から避難するときは、この道は通らない方がよいことを家族にも伝えたい」という声が聞かれ、自分事として捉えられているようであった。

4 成果と課題

- 実際に学習したことを、自分の学区に置き換えて歩いてみることで、自分事として防災について捉えられることができた。
- 協力者の方々に活動に加わっていただき、話を聞いたり一緒に考えたりすることで、区役所の目線、消防の目線など、多様な角度から物事を捉えることができた。
- 今後は、情報の発信の場面で、相手により分かりやすく伝えることができるように、資料の提示の仕方や、話し方を工夫させていきたい。